

文化・芸術

「ゴールデン・シティ」

1946年、油彩、ボード
61・6センチ×39・4センチ

ジョージ・グロス

(1893～1959年)

ジョージ・グロスはベルリンに生まれ、第一次世界大戦末期から戦争の実態に幻滅し、鋭い風刺の作品を多く描きます。ドイツへの反感から、ドイツ語の名前を英語読みのジョージに、名字のつづりも変更しています。父の運動にも参加し、複数のイメージを接合、合成するモンタージュの手法を展開しました。その画風は野田英夫や松本竣介にも影響を与えます。グロスは風刺的な作品により、たびたび裁判に付されましたが、やがてナチスが台頭し、1933年には本格的に米国へ亡命しました。

渡米後、再び油彩画に取り組み始め、本作は朝日に照らされた「シルバースティ」と並んで描かれた作品。ニューヨークの摩天楼を描き、真っ赤に燃えるような街に強調して描かれた高くそびえるビルが黄金に輝いています。初代館長・大川栄二は「文化とは程遠い文明の偽善を訴えているから、絵としては美しいのです」と述べています。

(大倉)

名画の扉

大川美術館企画展「大川栄二誕生
100年記念 コレクターの目」から

